資料２

壁画に関するこれまでの新たな知見

１．下絵の使用と転写方法について

●高松塚古墳壁画における転写の痕跡と見られる例

Ⅰ．線状のくぼみの中に赤色が付着したもの

図１　東壁男子群像（男子３）

図２　西壁女子群像（女子１）

Ⅱ．線状のくぼみ

図３　東壁男子群像（男子４）
他に　東壁女子群像（女子１）

Ⅲ．赤色の線

図４　西壁女子群像（女子４）

２．星宿図中の金箔について

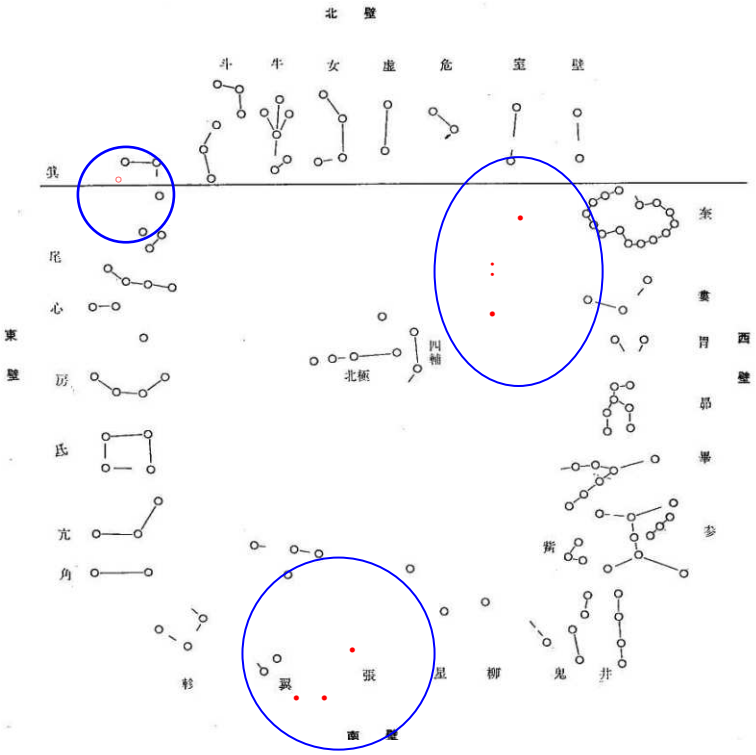
●これまで報告されている天井の星の数

金箔１１９箇所＋金箔の痕跡６箇所＝計１２５箇所

（出典：高松塚古墳総合学術調査会『高松塚古墳壁画調査報告書』昭和 49 年）

● 今回新たに発見された金箔添付箇所（赤色で示した箇所。実際の位置を正確には示していない）

→ 新たに見出されたものは、８箇所



【参考】日中古代における下絵の転写方法例

（出典：西川明彦『日本の美術 486　正倉院宝物の装飾技法』参照。）

① 臨写法　下絵を傍らに置いて図様を目で確認しながら、転写先に直接図様を写す方法。
→例：「貼角金具」（正倉院南倉 166）・「蘇芳地彩絵箱」（正倉院中倉 153）

② 捻（念）紙法　下絵の裏側に木炭の粉や色料を塗り、転写先に下絵を当て、篦や尖筆で線描をなぞって転写する方法。→例：キトラ古墳壁画・「鳥毛立女屏風」（正倉院北倉 44）・法隆寺金堂旧壁画・「造花様」（正倉院中倉 20）

③ 陰刻法　転写先に下絵を当て、篦や尖筆で強く線描をなぞり、線状の痕跡を残すことで転写する方法。篦等のかわりに針状のもので点列をつけて転写する場合もある。
→例：キトラ古墳壁画・「鳥毛立女屏風」（正倉院北倉 44）・法隆寺金堂旧壁画・「造花様」（正倉院中倉 20）

④ 漏稿法　下絵の線描に沿って細かな孔を開け、孔を開けた下絵を転写先に当て、下絵の上から粉状の木炭や色料を振り掛け、点列状に下絵を転写する方法。→例：「如来坐像」（敦煌出土　フランス国立図書館）